

非アルコール性脂肪性肝疾患における動脈硬化関連因子の検討

◎西川 香奈子¹⁾、寺井 利枝¹⁾、森山 美奈子¹⁾、脇田 翼¹⁾、堀江 優美¹⁾、西原 幸一¹⁾
地域医療振興協会 市立奈良病院¹⁾

【目的】

近年、我が国では肥満の頻度とともに、非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の罹患率が上昇している。脂肪細胞由来のアディポサイトカインである、TNF- α は NAFLD において高値となり、血管内皮細胞を直接障害し、動脈硬化を伸展させる機序が報告されている。今回、NAFLD 患者における、TNF- α と動脈硬化の関連を調査することを目的とした。

【対象・方法】

肝臓内科、一般内科に通院中の NAFLD 患者を対象として、観察研究を実施した。市立奈良病院倫理委員会で承認をうけ 2017 年 3 月から 2018 年 3 月の 1 年間を登録期間とした。IMT は、プラークを除く総頸動脈遠位壁を左右 3 箇所ずつ計測し、それぞれの mean IMT を算出した。IMC 肥厚と関連する因子として、血管リスク、肝線維化マーカーとしてフェリチンと IV 型コラーゲン 7S、炎症マーカーとして、高感度 CRP と TNF- α 、IL-6 を測定し、IMC 肥厚とそれぞれの因子との関連を、単変量解析、多変量解析を用いて検討した。

【結果】

背景となる疾患が明らかな肝機能障害を除く、臨床的に NAFLD と診断された患者 60 例を登録、腹部エコーを実施し、検査時点で脂肪肝所見のない 21 例を除外、そのうち頸動脈エコーを実施できた 38 例、76 血管での解析を行った。NAFLD 患者において、単変量解析では、IMC 肥厚と年齢、収縮期血圧、HgbA1c、LDL-C、TNF- α に有意な関連 ($p < 0.05$) が認められた。

多変量解析においては、IMC 肥厚と年齢、HgbA1c、TNF- α に独立して有意な関連 ($p < 0.05$) が認められた。

【結論・考察】

NAFLD 患者において、TNF- α が単変量、多変量解析にて mean IMT と関連する傾向を示した。NAFLD における動脈硬化において、TNF- α が与える影響、機序に関して文献的考察を行う。

地域医療振興協会 市立奈良病院 臨床検査室
0742-24-1251